日本庭園のアメリカへの伝来—ルイジアナ万国博覧会における日本庭園

The Introduction of Japanese Garden to United States: Imperial
Japanese Garden in the Louisiana Purchase Exposition

五島聖子

Seiko Goto

ラトガーズ大学

Radogazu Univercity

Key Words : (邦文) 1. ルイジアナ万国博覧会 2. 日本庭園 3. アメリカ

(欧文) 1. Louisiana Purchase Exposition 2. Japanese Garden 3. USA

欧文要約

Meiji Government created the Imperial Japanese Garden in the Louisiana Purchase Exposition, which was the first Japanese strolling garden created outside of Japan. This garden was an “authentic” one which was planned by the government sending the best staffs and materials to demonstrate its aesthetic traditions to America. This paper introduces the process of construction and Americans’ response to the first Japanese garden using the original documents from the Meiji Government, articles of American press, and diary and memoir of the visitors.

摘要

「中国趣味」がヨーロッパの中で一時的な流行であり、庭園においても中国庭園の部分的な要素が西洋庭園の中に取り入れられたのに過ぎないのに対して、アメリカにおける日本庭園は単なる流行ではなく、第二次世界大戦中の一時期を除き、20世紀初頭から今日に至るまで作り続けられてきた。それは決して西欧式庭園の中に取り込まれることなく、独立した一庭園様式として認められている。では、アメリカに日本庭園はどのように伝来したのか。また、アメリカ人は始めて見る日本庭園をどのように受け止めたのか。本論文では、海外で最初に作られた回遊式庭園についてその造園の経緯と影響を紹介する。

1. ルイジアナ万国博覧会

アメリカにおける日本庭園の導入は、ヨーロッパにおける中国庭園の導入とは、全くその経緯と内容が異なっている。18世紀、中国庭園がヨーロッパに中国と関係を持ったヨーロッパ人によって紹介されたのに対し、日本庭園は、明治政府によってアメリカに日本の代表的文化の一つとして紹介されている。実際、20世紀初頭から今日に至り、日本庭園を愛好するアメリカ人は多く、現在のアメリカ東海岸ではアメリカ原産の樹木より、日本の樹木が多く庭木として売られている。また、アメリカにおけるランドスケープデザインの進展の歴史の中でも、日本庭園は非常に大きな影響を及ぼしている。フランク・ロイド・ライトを始め、トマス・チャーチ、ピーター・ウオーカーなど、多くのアメリカ・ランドスケープの先駆者たちが、独自のデザインを確立するに当たって日本庭園から様々なヒントを得てきたのである。

1851年、英国ロンドンで、最初の万国博覧会が開催されると、それ以来20世紀初頭に至るまで、欧米諸国で万国博覧会が次々と開催された。日本が最初に欧米諸国の万国博覧会に出品したのは、1862年に開催されたロンドン万国博覧会である。これはイギリス初代駐日総領事サザフォード・オールコックらが在任中にコレクションした品々を出品したもので、日本政府は直接関与していない。しかし、続く1867年のパリ万国博覧会以降は、日本は政府として出品し、パリ万国博覧会では幕府のほかに薩摩

藩と佐賀藩が参加している。明治時代に入ると、明治政府は国内で西欧文明の導入に努める一方、万国博覧会に積極的に参加し、日本の国力を欧米諸国に紹介することに力を入れるようになる。ⁱ米国と不平等条約を結ばされた明治政府は、西欧に日本の生産性と伝統の高さを紹介し、西欧社会と互角であることを西欧人にアピールする必然性に迫られていた。その中で万国博覧会は、日本の文化と物産を欧米諸国に紹介し、輸出の増加を図ることのできる絶好な機会と考えられたのである。明治政府は、1873年にオーストリアのウィーン万国博覧会に一国家としてはじめて公式に参加するが、この時出品された項目には既に日本庭園が含まれていた。

1904年、アメリカ合衆国ミズーリ州セントルイスで4月から12月までレイジアナ博覧会が開催される。これは1803年にアメリカがフランスから2,100,000 km²を超えるルイジアナを買収した100年目を記念した万国博覧会であった。博覧会場は、現在のセントルイス・フォレスト公園の西側半分とその隣地を使い、総面積1,272 エーカー (4.9km²) であった。ⁱⁱこの博覧会には64の諸外国と合衆国45州のうち43州が出品し、1,200万人が訪れ

ている。それまでのアメリカで開催された博覧会で最も大規模なもので、会場全部を回するには少なくとも一週間かかったといわれた。この博覧会では、世界で初めてアイスクリーム・コーンを使ってアイスクリームが売られ、ホットドックやハンバーガー、ピーナツバター、アイスティー、綿アメが大衆に向けて売られた博覧会としても有名である。

セントルイス博覧会では、明治政府はアメリカ国外から出場した諸外国の中で、イギリスに次いで多くの物品や、技師、大工、その外の専門家を送り込んだ。ⁱⁱⁱ博覧会の準備を始めた時期はイギリスに次いだが、出品物の点数は諸外国の中で日本が最も多かった。博覧会場には、新古典主義の規模の大きなパビリオンが建てられ、日本はその主だったパビリオン；交通館 (Palace of Transportation,) 産業館 (Palace of Varied Industry,) 一般教養館 (Palace of Liberal Arts,) 鉱物館 (Palace of Mines and Metallurgy,) 教育館 (Palace of Education,) 生産・経済館 (Palace of Manufacture and Social Economy,) 電気機械館 (Palace of Electricity and Machinery,) 機械館 (Palace of Machinery,) 美

図1 博覧会場図

術館 (Palace of Fine Art,) 農業館 (Palace of Agriculture,) 林業・魚業・娯楽館 (Palace of Forestry, Fish, and Game) と、アミューズメント・エリアであるパイク (Pike) に日本は出品し、出品物が占めた総面積は諸外国としては最も広い7エーカーであった。(図1)

特に産業館の日本部門には、入り口に日光東照宮の陽明門のレプリカが造られ、工芸品や織物、調度品などが陳列され、その展示物は50,328平方フィートを占めた。

iv 日本の出点は、20,000人の出品者による80,000点以上の出品物から構成され、これらは50の主だった商社と製造会社によって統括された。パビリオンの外では、40店の店舗からなる浅草雷門の仲見世通りが再現され、そこでは陶芸や機織、象牙や宝石の細工、絵、扇子、飴職人が実演販売をしたり、150の人力車がアメリカ人客を乗せて場内を走ったりと、アメリカ人の観客を大いに楽しませ、日本の出しものは博覧会の目玉の一つとなった。

v 日本は大パビリオンの中で諸外国と肩を並べ様々物産を出品するとともに、独自の日本パビリオンも建設した。

(図2、図3)これは約2エーカーの回遊式庭園であり、その中に金閣寺、紫宸殿、茶室、フォルモサ館が建てられた。(図4、図5、図6)「フォルモサ」は、日清戦争以後日本の占領下にあった台湾の別称である。日本パビリオンは6月1日に正式にオープンされ、オープニングには当時大統領であったセオドア・ルーズベルトの息女アリス・ルーズベルトも訪れている。vi パビリオンでは日本から来た約25人の芸者が華やかな着物を着て踊りや和楽器を披露し、茶室では緑茶が振る舞われた。11月17日は、日露戦争で活躍した東伏見宮依仁親王もここを訪れている。vii

図2 日本パビリオン鳥瞰図

図3 日本パビリオン平面図 (大日本帝国庭園)

図4 金閣

図5 紫宸殿

図6 庭園内の芸者

セントルイスに博覧会が開催が決定されると、明治政府は、いち早く1902年に23,214円20銭の予算をもって、博覧会の参加に関する19名からなる博覧会準備委員会を設立し、4名の委員を開催予定地の調査に派遣した。当時の博覧会準備の様子は、『農商務省聖路易万国博覧会本邦賛同事業報告』に以下のように記録されている。

此ニ於テ之カ準備調査ニ要スル費用金二萬三千二百四十四円二十銭ヲ第二予備金ヨリ支出スルコトシ明治三十五年十一月左ノ如ク準備委員会規定ヲ定メ且委員長以下ヲ任命セラレタリ。^{viii}

現地調査の結果、委員会はセントルイスに準備のために派出所を設けることを決定し、1903年1月、ミズーリ州メープル街5655番地に派出所が設けられた。記録によると、派出所は、一旦、博覧会会場に移転されるが、開催日が迫ると再びメープル街に移された。

出張所ヲ開設スルコトシ、明治三十六年一月十四日左ノ通り告示セリ。

臨時博覧会事務局出張所ヲ左記ノ場所ニ設置ス。

北亜米利加合衆国ミズーリー州聖路易市メープル街五千六百五十五番。

同年三月下旬ニ至リ博覧会場ニ於ケル本邦政府館敷地内事務所ノ建築落成シタルヲ以テ同所ニ於テ事務ヲ取扱フコ

トトシ出張所ヲ移転シタル旨通知アリ。臨時博覧会事務局出張所ヲ左記ノ場所ニ移転ス。

北亜米利加合衆国ミズーリー州聖路易市聖路易万国博覧会場内。

十二月下旬ニ至リ会場内ニ於ケル事務結了シ且出張所ノ建物ハ翌三十七年一月初旬ヨリ取壊ニ着手スヘキヲ以テ出張所ヲ再メープル街ニ移シ其後米国ニ於ケル諸般ノ事務完了ヲ告ケ明治三十七年二月二十五日出張所ヲ閉鎖シタリ。

ix

その後、明治政府は191名からなる博覧会実行委員会を設立し、出品物の計画や製作が始められた。博覧会実行委員には農商務大臣を始め、東京高等工業学校長、東京美術学校長、京都高等工芸学校長など、各分野の第一人者が選抜された。この博覧会参加準備には、明治政府は2年余の歳月が費やされた。

2. 博覧会における日本庭園の造成

更に、ここで庭園造成の経緯を『農商務省聖路易万国博覧会本邦賛同事業報告』の記録を抜粋しながら考察する。現地調査に赴いた博覧会準備委員会は、会場に87,500平方尺の土地をパビリオンに確保して帰国し、そこに日本庭園を造ることを決定する。庭園の設計に指名されたのは福羽逸人である。

庭園ハ当初準備派遣委員渡米ノ際約束シタル幅二百五十尺長三百五十尺面積八萬七千五百平方尺ノ地域内ニ於テ土地ノ所在及高低ニ從ヒ建造物ノ位置ヲ考定シ以テ恰好ナル本邦固有ノ庭園ヲ築造スルコトシ本局評議員宮内省内苑局長心得福羽逸人ニ其設計ヲ囑託セリ。^x

福羽逸人は石見国（現在の島根県）に生まれ、1872年、16歳の時に内藤新宿試験場の実習生となり、1878年に農事修学場に勤務する。新宿植物御苑の発足とともに職員

となり、退官するまでの40年近くを御苑とともに歩むが、御苑だけでなく日本国内外の博覧会の企画に協力している。1907年に爵位を、1919年には農学博士の称号を受け、また1885年ごろには、フランスとドイツにブドウ研究のため留学するなど、国内外で幅広い実績を築いた。当時、日本では洋風文化が取り入れられ、福羽は日本の造園に洋風庭園を導入した第一人者である。日比谷公園の設計に関与するほか、1900年にパリの万国博覧会へ園芸出品審査員として参加した福羽は、ヴェルサイユ園芸学校の造園教授アンリ・マルチネー（Henri Martine 1867-1936）に新宿植物御苑を庭園に改造する計画を依頼し、翌1901年に植物御苑改造計画を宮内大臣に提出し、5ヵ年の改装計画事業を始めている。また、1900年には、福羽は日比谷公園の設計も依頼され、園芸花卉の配置設計を担当している。^x

つまり、福羽が博覧会の日本庭園の設計を依頼されたのは、日本庭園造成の業績というよりは、海外における経験によるものと考えられる。庭園の担当委員に選ばれた福羽は、セントルイスの現地に赴き、庭園の設計をするが、同年に開催されていた第五回国内勸業博覧会の委員にもなっていたので、設計案を政府に提出すると農事試験場技師市川を庭園造成の責任者として指名する。

福羽評議員ハ賓地ニ就テ其位置、地勢、水利、及借景ノ有無等造園上諸般ノ調査ヲ為スノ必要アルヲ以テ明治三十六年九月渡米シ詳細調査ヲ遂ケ十一月初旬帰朝シ予定経費内ニ於テ施工シ得ヘキ図案ヲ提出セリ。仍リテ其築造ヲ農事試験場技師市川之雄ニ囑託シ園丁吉野竹次郎ヲ従ヘテ渡米ノ上ニ従事セシム同囑託員ハ同年十二月三日出発同月二十一日聖路易ニ着シ直ニ起工ニ着手シタリ。^{xii}

実際、市川らが庭園の施工のために現地に赴くと、当初決められた敷地は建築物で手狭で、十分に庭園の面積が確保できないことが判明した。そこで博覧会会社と交渉し、庭園造成のために敷地境界線を拡張し、面積は15万平方尺と、約倍増される。庭園の造成は12月に始めら

れるが、地面の凍結するミズーリ州の冬と日本庭園を知らないアメリカ人を使つての工事は難行する。しかし市川らは困難を克服し、日本庭園博覧会の開催日までに殆ど完成された。

造園ノ工事ハ十二月二十五日ヨリ之ヲ始メタリ當時尚幸ニ積雪ヲ見スト雖モ地表ハ五六寸ノ厚サニ氷結シ爾後寒威ノ更ニ厳ナルニ及ヒテハ表層一尺五六寸全ク凝結シテ其堅キコト恰モ石ノ如ク土工ノ器具復タ用ウヘカラサルニ至ル英佛政府館敷地内ノ造園事業及博覧会会社ノ土工ハ之カ為ニ一時休止シタリ。然レトモ我ニ於テハ役夫ヲ督励シ寒氣ヲ犯シテ業ヲ続ケシメ爆烈藥ヲ用テ凍土ヲ碎キ辛ウシテ工事ヲ廢セサルコトヲ得タリ。三月以後ニ至リテハ氣候頓ニ暖クシテ烈寒ノ困難ハ去レリト雖モ降雨頻リニシテ泥濘常ニ馬脚ヲ没却シ搬土ノ馬車其用ニ堪エス悉ク人力に因ルの外ナキニ至リ本邦ヨリハ僅ニ一名ノ園丁ヲ渡米セシメタルノミニシテ工事ハ全然米國ノ労働者ヲ使役シタルカ故ニ彼等ハ本邦ノ役夫ノ如ク荷擔ニ巧ナラスシテ事業進歩セス却テ寒中ノ工費ニ超過スル勞銀ヲ費シタリ。然レトモ終ニ工事ヲ中止セシコトナク続行シタル結果開場式当日ニハ石組ノ少部分ヲ除ク外泉池、築山、植樹、園路、排水、架橋、四阿屋ノ建築ヨリ捲芝ニ至ルマデ殆ト全ク竣成ヲ告クルコトヲ得タリ。

xiii

博覧会に造成された庭園は、池、滝、築山、中島からなる伝統的な手法に従った池泉回遊式庭園であった。庭石は現地の石が用いられたが、灯籠と噴水、庭木の多くは日本から送られた。図版からみてもわかるように、所狭しと建てられた様々な様式の建築や、日本庭園としては異常に広い園路、背景となる西欧建築と観覧車が目立ち、日本の樹木を紹介することに眼目を置いた庭園であった

ことが伺える。日本で整姿された樹木はアメリカ人に愛好され、多くのアメリカ人が樹木購入の問い合わせをしたとあることから、博覧会の日本庭園は日本樹木を大きく宣伝し、輸出用樹木の生産増加に貢献したといえる。

庭園ハ家屋ノ位置、植樹、配石、泉池、築山ノ結構ヨリ在来ノ林丘ヲ利用シテ造リタル小瀑布ニ至ルマテ能ク日本特有ノ景趣ヲ成セリ。園中ノ経路ハ事務所、売店、喫茶店、茶店等ニ通スル幹路ヲ巾十五尺トシ爾餘ノ小径ハ六尺トシ其曲折交叉ハ則テ洋式ノ庭園ニ取リタルヲ以テ群集ノ散策自在ニシテ毫モ狹隘ノ悼ナカリキ。

又日本庭園ニ缺クヘカラサル石燈籠ハ大阪山中商会ヨリ出陳セシメ雪見形、春日形、大佛形、利休形等ノ各種竝ニ青銅ノ鶴亀等皆出品ヲ利用シ以テ園中ノ趣致ヲ添ヘ池中ニモ亦出品ノ青銅水盤ヲ置キ水道ヲ利用シテ時々噴水セシメタリ。眺望ニ可ナル丘上ニハ四脚及傘形ノ四阿屋ヲ設ケ池中ノ中島ニハ土橋及船板橋ヲ架シ園中諸所ニ本邦ノ伊豆黒朴石ニ代用スヘキモノヲ求メ得タリ。庭木ハ成ルヘク本邦産ノモノヲ用イルコトトシ其品種ヲ選択シテ横浜植木商会ニ命ジ之ヲ採集シテ二月下旬ヨリ荷造ニ着手シ三月上旬全部発送セリ。其聖路易ニ着シタルハ四月中旬ニシテ途中約一ヶ月半ヲ費シタレトモ季節荷造共ニ宜シキヲ得タルヲ以テ運搬中枯損シタルモノナク皆安全ニ到着セリ。

広島県ヨリ出品セル柿苗ノ如キハ水苔ヲ以テ幹根全部ヲ縄ヒ多量ノ湿氣ヲ添ヘ密閉セル箱詰トシテ輸送セルヲ以テ全ク腐敗シテ毫モ生氣ヲ存セサリキ。遠隔ノ地ニ輸送スル樹木ハ乾燥ノ為ニ枯死スルヨリモ寧ロ湿潤ニ過クルヨリ腐

死スルモノ多キコト従来経験ノ示ス所ナルヲ以テ適宜ノ湿氣ヲ添ヘ多少空氣ノ流通スル荷造ト為スヲ要ス。

今回庭園ニ栽植シタル庭樹ハ多ク盆栽仕立又ハ専ラ外国輸出ノ目的ヲ以テ培養セルモノニ係リ其根良好ニシテ樹勢最適当ナルモノヲ選択シタリ。其品種ノ主ナルモノヲ挙クレハちやぼひば、楓類、藤ノ老木、中州仕立黒松、赤松、五葉松、多行松、大蘇鉄、八角金盤、高野槇、各種ノ青木衛矛梧桐、古木大羅漢槇、落葉松、各種ノ躑、南天、そなれ、枝垂柳、竹及笹類、檻柳、古木ひよくひば、公孫樹、八重桜、いぶき玉、其他花床用ノ花菖蒲、各種ノ百合及菊等トス。羅漢槇、ちやぼひば、檻柳、黒松、赤ひよろ松等ハ縦横共ニ一丈内外ノ老木ニシテ樹姿頗ル宜ク就レモ園中ノ主樹タリ。就中ちやぼひばハ皆差枝ヲ省キシ玉造リニシテ有数ノ良樹ナリシカハ特ニ日本庭園ノ美観タリシノミナラズシテ会場内ノ主樹ト称セラレタリ。楓ハ芽出シ紅葉ノ類集中紅枝垂ハ単ニ芽出シノ美ニ止マラズ夏期ヲ通シテ紅葉ノ美観ヲ有シタルト樹姿奇矯ナルトニ依リ最モ米国人ノ愛賞ヲ受ケタリ。藤ハ紫白玉ヲ連ネタルカ如ク紫簾ヲ垂レタルニ似タリ等ノ賛辞ヲ戴セ花、謝シテ後モ往々来リテ藤花ノ所在ヲ問フ者アリ。又是等樹木売却ノ如何ヲ問ヒ来ル者少ナカラサリキ。要スルニ今回築造シタル庭園ノ美観ハ直接ニ日本部ノ光彩ヲ添ヘ間接ニハ其栽植展示シタル庭樹、花及裝飾品ノ将来ニ於ケル輸出増加ノ媒介ヲ為セルモノナリ。唯恨ムラクハちやぼひばノ如キ米国人ノ最愛賞スル所ナレトモ殆ト既ニ輸出シ尽シタリト聞ク。営業者宜ク之カ栽培ヲ盛ニシテ以テ其増植ヲ図ルヘキナリ。

菊花ハ本邦草花ノ特色ヲ発揚スルモノナルヲ以テ秋季殊ニ天長節ノ佳辰ニ際シ其芳香美観ヲ以テ庭園ノ光彩ヲ添ヘント欲シ花床用トシテ専ラ小菊ヲ培養シ又試ニ大造菊数株ヲ栽培セリ。其種苗ハ市川囑託員渡米ノ際之ヲ携ヘ行キ冬間ノ護用ニ注意シテ約千本ノ苗子ヲ養生シ本館背面ノ花壇に於テ培養シ又大造菊数株ヲ大造ニ養成セリ。氣候ノ激変、大氣ノ乾燥、夏期の酷暑等ノ為ニ發育容易ナラセリシカ適當ノ培養ヲ加ヘテ却リテ本邦ニ於ケルヨリモ良好ナル矮小ノ小菊ヲ作り得テ園内花床ノ裝飾ニ適スルコトヲ得タリ。大造菊ハ十分ノ成果ヲ見ルニ至ラサリシト雖モ其最大ナルハ一株ニシテ能ク径六七寸ナル。二百余輪ノ花ヲ開キ枝張六尺内外ニ達シタリ。仍リテ紅白黄ノ三色五株ヲ選ヒ木製石蓋盆ニ移植シ整枝ノ上園内ノ一隅ニ上屋ヲ建設シテ之ヲ配列シ其地床ハ各種ノ小菊ヲ以テ裝飾セリ。花床ニ移植シタル小菊類モ夜間防霜ノ覆蓋ヲ施シタルヲ以テ開宜ク天長節ニ催セシ大園遊会ノ頃ヨリ満園菊花ノ美ヲ以テ観者ノ目ヲ悦ハシメタリ。

我カ庭園ハ景勝ノ地ヲ占メテ植樹、配石、借景ノ利用等皆宜シキヲ得景趣全ク他ノ賛同諸外国ノ庭園ト異ナリシヲ以テ場内三大庭園ノ第一ニ推サレタリ。所謂三大庭園トハ即チ日英佛三国ノ庭園ニシテ英国ハ華麗、佛国ハ精緻、日本ノ庭園ハ風雅ヲ以テ称セラレキ。英国ノ庭園ハ前年夏秋ノ頃ヨリ工事ニ着手シ本邦庭園ノ工事ニ着手セル頃ハ殆ト完成シ佛国ノ庭園ハ大体ノ地盤前年ニ成リ樹木ノ植栽亦早く終レリ。其費用、英国ハ三萬弗、佛国ハ三萬八千弗ノ予算ヲ以テ起工シタリト云フ。然ルニ我カ庭園ハ経

費僅ニ其二分ノ一ニ足ラス加フルニ工事ハ最も困難ナル時期ニ属シ而モ短日月ノ間ニ竣成シタルニ拘ハラス是等ニ大庭園ニ勝ルト称セラレ会場内ニ於ケル社交ノ一場ト為リ往々外人ノ園遊会ニ借ラレタルカ如キハ亦喜フヘキ成功ノ一ニ数フルニ足レリ。^{xiv}

上記の記録に見られるように、庭園は慣れない気候と文化の中で試行錯誤を重ねて造られたが、工期と工事費はフランス庭園とイギリス庭園より少なくして完成された。博覧会では日本庭園はフランス庭園、イギリス庭園に並ぶ博覧会の三大庭園に数えられ、しかも博覧会の最後には、日本庭園が庭園の第一に選ばれたというのであるから、最初に作られた回遊式庭園は大成功を収めた様子が報告されている。

3. アメリカ人の反響

セントルイスの博覧会に作られた日本庭園は、海外に作られた最初の回遊式庭園である。フランクロイド・ライトはこの日本の建築と庭園を訪れ、その直後、最初の日本旅行の予約を入れている。農務省の報告では博覧会に造成された日本庭園は、アメリカ人に高く評価されたと記されているが、アメリカの出版物の中では日本庭園はどのように評価されたのか。ここで、セントルイス博覧会について記された当時の記事と、博覧会を訪れた観客の手記をもとに、日本の展示物に関する書評を検討する。

明治時代、当時の西欧人にとってアジア諸国は古い伝統に固執し時代の流れに背を向けた後進国であり、セントルイス博覧会のアメリカ人の書評も、アジア諸国の展示物に関しては概して冷ややかなものであった。たとえば、*History of the Louisiana Purchase Exposition. St. Louis* に記録されている観客の手記にも、ドイツやフランスからのヨーロッパの工芸品を絶賛する一方で、中国の工芸品に対しては「いたずらに時間を浪費しただけの、ちまちまとした細工物……」、また、ペルシャの絨毯に対しては「愕然とするほど高額だが、何ともみすばらしいカーペット……」など、極めて批判的であることが伺われる。^{xv}

ところが中国やペルシャを批判した同じ著者の手記に

も、日本に対する評価はアジア諸国の中で例外的に好意的である。更に報道者と観客による記録の中にみる日本に関する書評は、他のどの国に関するものよりも多い。*Through Western Eyes* にみる訪問者の記録には、日本人を「小さい醜いジャップ」と呼び、「白人のように白い肌の芸者にびっくり・・・」など、依然として差別的な態度が見られる一方、日本の工芸品の質の高さを評価するなど肯定的な態度を見せている。彼らは西欧社会に追いつこうとする日本の産業の進展や工芸品におけるデザイン性を絶賛し、日清戦争に勝ち、日露戦争にも優勢を帰した日本をアジア諸国の中で例外的な先進国として結論付けている。^{xvi}

博覧会場に作られた庭園は6月1日に正式にオープンされ、庭園に関しても数々の書評が残されている。書評は「庭園」と題しながら、庭園内に建てられた建築物のコメントで終始するものが殆どであるが、滝と池、小山を設けた庭園はアメリカ人の好感を得たようである。ここでその例を抜粋すると、以下のようである。

日本の庭園：日本館では7つの大きな建物と、日本の天皇が民衆に挨拶をする東京の紫宸殿という建物のレプリカが建てられている。それと肩を並べるように建てられたのは、フォルモサ館、茶室、金閣、日本バザール、そして駐在員官邸である。建物の建設には、瓦や彫物、その他の特殊な材料は日本から輸送され、大工や庭師そのほかの熟練した職人によって日本独自の景観が作り出された。歴史、習慣、服飾、礼儀作法が美しいピクチャレスク庭園の中で披露され、これ以上すばらしい展示は博覧会場内にない。日本館は最も興味深い研究課題を提供し、異常なまでの注目を浴びている。それは日本が物質的に平和で、最近戦争によって英雄的な勝利をおさめた国として、世界にその頭角を現してきた国だからであろう。博覧会のどの部分として、日本館ほど面白いところはない。^{xvii}

また、

大日本帝国庭園：整姿された樹木を含めて建築材料を自国から輸送し、何世紀にも渡

って培われた日本のランドスケープ・アートが、博覧会場の最も良い場所の小山の上に造られた。小さな丘や滝、池、橋は日本独自のものである。花やツタ、灌木類は、日本人の目に最も自国の植物に近いものが現地で厳選され、完璧な日本庭園が作られた。^{xviii}

など日本庭園を好意的に評価しており、ここには中国その他のアジア諸国の出点に対するような酷評は全く見られない。

アメリカに作られた回遊式庭園は好評を得たが、博覧会開催後、庭園は取り壊され、現在のフォレスト公園には残っていない。明治政府は日本館に建てられた建築物をアメリカ人に売却することができず、結局紫宸殿、日本領事館官邸とそれに付随した眺望亭を日米で業績を認められていた高峰譲吉（1854-1922）に日米友好促進のために譲渡した。^{xix} 高峰は富山県に生まれ、消化酵素ジアスターゼを発見したことで世界的に知られる化学者である。高峰はニューヨーク州モンテチェロ市に20エーカーの日本庭園を作り、そこに譲渡された建物を移築し、松風殿として現在に至る。金閣寺はフィラデルフィアのフェアモント公園に1905年に寄贈されたが、1954年に焼失した。そのほか、博覧会で使用された4基の雪見灯籠は、1972年にミズーリ植物園に作られた清和園に移され、現在も見ることができる。また博覧会が閉幕されると、1905年にシフマン氏(Rudolph Schiffman)が日本庭園に植えられた樹木を「希少にして膨大な植物コレクション」として、庭園内の樹木や灌木、春日灯籠4基を博覧会実行委員から買取し、ミネソタ州セント・ポールのコモ公園に日本の茶庭を造り、そこに移植した。この庭園は数年後ゴルフコースの建設のために取り壊され、現存するコモ公園の日本庭園は、1979年長崎市から寄贈されたものである。樹木はゴルフコースの造成の折に伐採されてしまったが、現在も春日灯籠4基はコモ公園に見ることができる。^{xx}

西欧諸国に肩を並べようと躍起となって産業を興し、西欧風の軍隊を編成して海外進出を図った明治政府の政策は、アジア諸国では大きな反日感情を巻き起こしたが、一方でアメリカ人が日本文化に対して、一目を置くこと

にもなった。その結果、博覧会ではアメリカ人はアジア諸国の中では例外的に日本の出点物を好意的な目で捉え、庭園に関しても始めて見た庭園様式であったにもかかわらず、日本庭園を最も優れた庭園として選んだのである。

参考文献

- World's Fair bulletin*. St. Louis : World's fair publishing co.
- Bennitt, Mark. *History of the Louisiana Purchase Exposition*. St. Louis : Universal Exposition Publishing Company, 1905.
- Christ, Carol. Japan Seven Acres: Politics and Aesthetics at the 1904 Louisiana Purchase Exposition. *Gateway Heritage* 17:2, 1996.
- . Through Western Eyes: Americans encounter Asian at the Fair. *Gateway Heritage*. 17:2 1996.
- Clevenger., Martha R. ed. *Indescribably Grand; Diaries and Letters from the 1904 World's Fair*. St. Louis: Missouri Historical Society Press, 1996.
- Lancaster, Clay. *The Japanese Influence in America*. NY:Walton H. Raws, 1963.
- Rademacher, Diane. *Still Shining! : discovering lost treasures from the 1904 St. Louis World's Fair*. St. Louis : Virginia Pub. 2003.
- Rau, William H. ed. *The greatest of expositions completely illustrated : official publication / illustrations reproduced from Goerz lens photographs*, St. Louis: Official Photographic Company, 1904.
- Walter B. Stevens. *The Forest City : comprising the official photographic views of the universal exposition held in Saint Louis*. Saint Louis : Puritan Pub. Co. 1904. No. 24
- 金井利彦 『新宿御苑』(改訂版) 東京公園文庫 1993
- 東京国立博物館編『世紀の祭典万国博覧会の美術』 2005
- 日本園芸研究会編 『明治園芸史』(大正4年日本園芸研究会刊の複製) 有明書房 1975
- 福羽逸人著 『福羽逸人回顧録』(複製) 国民公園協

会新宿御苑 2006

福羽逸人著 環境省自然環境局監修 国民公園協会新宿御苑編 『福羽逸人回顧録【解説編】』 国民公園協会新宿御苑 2006. PP. 87-88.

補注および引用文献

- ⁱ 『世紀の祭典万国博覧会の美術』 p. 10.
- ⁱⁱ Lancaster. P.137.
- ⁱⁱⁱ Christ. P.4.
- ^{iv} *World's fair Bulletin*. May1904.
- ^v Stevens. p.147.
- ^{vi} *World's fair Bulletin*. July 1904.
- ^{vii} *ibid*. Dec.1904
- ^{viii} 『聖路易万国博覧会本邦賛同事業報告』農商務省、明 34、38 1編 p. 6
- ^{ix} *ibid*. p.24
- ^x 『聖路易万国博覧会本邦賛同事業報告』2編、農商務省、明 34、38 p.73
- ^{xi} 『福羽逸人回顧録』
- ^{xii} *ibid*. p.74
- ^{xiii} *ibid*. p.75
- ^{xiv} *ibid*. pp. 76-78
- ^{xv} Clevenger.pp.25-27
- ^{xvi} *ibid*. pp.49-51.
- ^{xvii} Stevens. P.136
- ^{xviii} *ibid*. p.114
- ^{xix} Rademacher. pp.52-53, pp.96-97, pp.116-117
- ^{xx} 建築物の処分に関して『聖路易万国博覧会本邦賛同事業報告』は以下のように記している。
- 外国ノ博覧会ニ於ケル本邦建築物ノ処分ノ毎ニ困難ヲ感スルハ畢竟。・・・而シテ今回ニ於ケル建物ノ内本邦政府館敷地内ニ設ケタル眺望亭ハ嘗テ宮内省御料局ニ於テ本邦建築用材ノ模範家屋トシテ第五回内国勸業博覧会ニ出品セシヲ今回移築ノ目的ヲ以テ同局ヨリ金千六百貳拾七円ニシテ閉会後金貳百壹円五厘ヲ以テ之ヲ売却シ其外事務局ニ於テ建築セシ日本館及付属物置共一棟、事務所一棟、同付属板塀ニヶ所、門一ヶ所及四阿二棟ハ金千五円二銭五厘ニ眺望亭ト共ニコレモ随意契約ヲ以テ売却ノ処分ヲ為セリ。『聖路易万国博覧会本邦賛同事業報告』2編、p.50